

15:1 サムエルはサウルに言った。「【主】は私を遣わして、あなたに油を注ぎ、主の民イスラエルの王とされた。今、【主】の言われることを聞きなさい。

15:2 万軍の【主】はこう言われる。『わたしは、イスラエルがエジプトから上って来る途中で、アマレクがイスラエルに対して行ったことを覚えてい。

15:3 今、行ってアマレクを討ち、そのすべてのものを聖絶しなさい。容赦してはならない。男も女も、幼子も乳飲み子も、牛も羊も、らくだもろばも殺しなさい。』」

15:4 サウルは兵を呼び集めた。テライムで彼らを数えると、歩兵が二十万、ユダの兵が一万であった。

15:5 サウルはアマレクの町へ行って、谷で待ち伏せした。

15:6 サウルはケニ人たちに言った。「さあ、アマレク人のもとを離れて下って行きなさい。私があなたがたを彼らと一緒にするといいないから。あなたがたは、イスラエル人がみなエジプトから上って来たとき、親切にしてくれたのです。」ケニ人はアマレク人の中から離れた。

15:7 サウルは、ハビラからエジプトの国境にあるシュルに至るまで、アマレク人を討ち、
15:8 アマレク人の王アガグを生け捕りにし、その民のすべてを剣の刃で聖絶した。

15:9 サウルとその兵たちは、アガグと、肥えた羊や牛の最も良いもの、子羊とすべての最も良いものを惜しんで、これらを聖絶しようとしなかった。ただ、つまらない値打ちのないものだけを聖絶したのである。

アマレクはかつてイスラエルに対して、虚を突いて後ろから攻撃しました。そのイスラエルの存在自体を認めないで、多くを殺しました。アマレク自らがイスラエルと両立できないような戦いを仕掛けてきたので、イスラエルは彼らを滅ぼす以外になかったのです。

聖書ではアマレクはサタンのひながたとして解釈することができます。サタンは信仰者を攻撃し、その救いと使命をなきものにしようと、手を尽くします。私たちはサタンの誘惑や力を残しておくことはできないのです。しかしサウルは自分のためにになりそうなものを残してしまいました。それはまさに神様に背く行為であって、サタンの力を残しておくようなものです。

サタンとその罪、そしてサタンの力である誘惑を聖絶しましょう。主の御心に反するものは、惜しいと思わないで、きっぱりと処分しましょう。拒否しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

